文部科学省CBTシステム（MEXCBT：メクビット）活用事例　【埼玉県】和光市立第四小学校

埼玉県の和光市立第四小学校　本間　麻衣先生から、MEXCBTの利活用についてお話を伺いました。
和光市立第四小学校では、令和６年度「教育課程実践検証協力校事業E-Assessmentに関するもの」の協力校となり、国語科のCBT問題の作成・開発を行いました。
そして、作成・開発したCBT問題を活用した授業を市内の学校に公開し、MEXCBTの効果的な活用について教職員で研修をしています。
■■■学校HPのURL　https://4sho.wako-city.ed.jp/　■■■

１．なぜ、MEXCBTを使って問題を作成しようとしたのか経緯を教えてください。

令和６年度「教育課程実践検証協力校事業E-Assessmentに関するもの」の協力校となりました。また、国語科の指導法の工夫改善について校内で研修を進めていたため、本事業と校内課題研修をタイアップし、教職員全体で組織を作ってMEXCBT問題の作成・開発、活用に取り組みました。

２．独自作成問題を使ってどのような授業を行ったか教えてください。

４年生「もしものときにそなえよう」第２時、５年生「あなたは、どう考える」第４時で研究授業を行いました。授業の導入の段階で児童一人ひとりがMEXCBT問題を解き、展開の中では１つの設問に焦点を当てて、学び合い活動を通して考えを深めていく授業を提案しました。ねらいは以下の通りです。
４年生：これから行う学習活動のテーマについて考え、自分の考えの理由を明確にする。
５年生：反論に対する考えの書き方とその効果について考え、自分の意見文を見直す。
児童は、MEXCBT問題を自分事として捉えて自分の学びの方向を選択・判断したり、誤答を分析する過程でより説得力のある意見文にするためにはどうしたらよいか考えたりすることができました。

３．問題を作成する際に、工夫した点、苦労した点、感想等があったら教えてください。

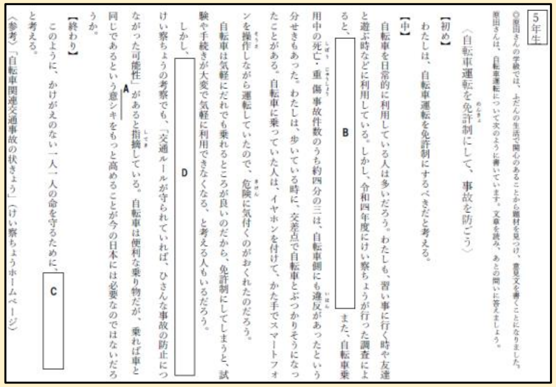
- 確認テスト以外の活用の仕方を模索した結果、本時の課題に迫るためのMEXCBT問題を開発し、問題を解いた後に学び合い活動を通して、主体的・対話的で深い学びにつながるような問題を作成することになりました。
- 問題作成の過程では、児童のつまずきと到達してほしい姿を具体的にイメージすることを大切にしました。
- 著作権を考慮して問題文を自作した点は苦労しましたが、重点指導事項を明確に意識する必要があり、単元を通して身に付けさせたい力が明確になりました。
- 出題形式は選択式とし、正答から学び、誤答からも学びが広がる問題になるように工夫しました。

４．MEXCBTを使ってみての子供たち、先生等の反応を教えてください。

【児童】授業後のアンケートでは、８８％の児童が「MEXCBTを使って学習して分かりやすかった」と回答しました。MEXCBTの問題と自分の現在の学びを関連させて考えられた児童が多かったと考えられます。また、８６％の児童が「MEXCBTを使って学習してよく考えられた」と回答しました。MEXCBT問題をきっかけに、本時のねらいに沿って学びを深めることができた児童が多かったと考えられます。
【教員】MEXCBTをきっかけとして話し合いが広がったり深まったりしており、効果的に活用できていたという意見が多かったです。国語は縦書きのため、問題文を読むために何度もスクロールしたり、解答欄の位置に迷ったりする児童の姿があったので、画面が見やすくなると児童は更に問題に集中できるとの意見もありました。

５．今後の展望、文科省へのご要望等ございましたら教えてください。

- 問題を公開するまでの手順や手続きが複雑でした。アップロードに関しては外部委託できるとありがたいです。
- 縦書き機能があるとよいです。今回は問題文を画像貼り付けにしたため、問題文は縦、解答欄は横書きです。
- 本校では既存の掲載問題も活用していますが、問題を一度配信しないと内容を見られないものも多く、問題選択に時間を要します。プレビューがあるとよいです。



5年生

◎原田さんの学級では、ふだんの生活で関心のあることから題材を見つけ、意見文を書くことになりました。原田さんは、自転車運転について次のように書いています。文章を読み、あとの問いに答えましょう。

〈自転車運転を免許制にして、事故を防ごう〉

【初め】

わたしは、自転車運転を免許制にするべきだと考える。

【中】

自転車を日常的に利用している人は多いだろう。わたしも、習い事に行く時や友達と遊ぶ時などに利用している。しかし、令和四年度にけい察ちょうが行った調査によると、 B また、自転車乗用中の死亡・重傷事故件数のうち約四分の三は、自転車側にも違反があったという分せきもあった。わたしは、歩いている時に、交差点で自転車とぶつかりそうになったことがある。自転車に乗っていた人は、イヤホンを付けて、かた手でスマートフォンを操作しながら運転していたので、危険に気付くのがおくれたのだろう。

自転車は気軽にだれでも乗れるところが良いのだから、免許制にしてしまうと、試験や手続きが大変で気軽に利用できなくなる、と考える人もいるだろう。

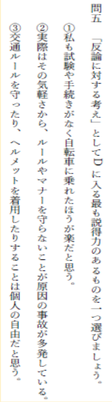
しかし、 D

けい察ちょうの考察でも、「交通ルールが守られていれば、ひさんな事故の防止につながった可能性」があると指摘している。自転車は便利な乗り物だが、乗れば車と同じであるという A 意シキをもっと高めることが今の日本には必要なのではないだろうか。

【終わり】

このように、かけがえのない一人一人の命を守るために、 C と考える。

〈参考〉「自転車関連交通事故の状きょう」（けい察ちょうホームページ）



問五　「反論に対する考え」としてＤに入る最も説得力のあるものを一つ選びましょう。
①私も試験や手続きがなく自転車に乗れたほうが楽だと思う。
②実際はその気軽さから、ルールやマナーを守らないことが原因の事故が多発している。
③交通ルールを守ったり、ヘルメットを着用したりすることは個人の自由だと思う。

１つの設問に焦点を当てて全体で深める様子

問題に取り組む児童の様子

対話しながら自分の意見文を推敲する児童の様子

※　CBT＝Computer Based Testing　コンピュータを使用した調査。
※　文部科学省では、いただいたご意見やご要望を参考に、順次、MEXCBTの改善を進めています。
※　MEXCBTの結果の表示方法は学習ｅポータルにより異なります。また、学習ｅポータルの種類は設置者により異なります。